

DAIKUEI

Vol.96



一般
社団法人

大阪空気調和衛生工業協会

機関誌 第96号(新春号)

〔目 次〕

巻頭言 新年のご挨拶 北村 広外志会長 …… 1	官公庁との懇談会
新年のご挨拶	◇国土交通省近畿地方整備局営繕部 …… 12
大阪府知事 吉村 洋文 …… 2	◇大阪府都市整備部住宅建築局設備課 …… 12
国土交通省近畿地方整備局	新技術・新商品説明会を開催 …… 13
営繕部長 中山 義章 …… 3	技術ニュースを発行 …… 16
新年交礼会を開催 …… 4	4団体協議会を開催 …… 20
日空衛第29回全国会議開催 …… 6	第51回野球大会を開催 …… 22
第14回配管技能コンテストを開催 …… 7	大空会ゴルフ大会を開催 …… 26
配管技能コンテストに参加して …… 9	青年部会・なでしこ設備会だより …… 27
(学生の部上位)	告知板(賛助会員募集・行事予定) …… 29
令和6年度安全衛生大会を開催 …… 10	年賀ご挨拶(会員・賛助会員一同) …… 30
	編集後記 …… 32

(表紙写真)

大阪中之島「堂島川」の夜景

大阪中之島の船遊びの運行ルートは、代表的なものとして、「堂島川」がある。
その川沿いには、大阪市役所、大阪市中央公会堂、大阪府立中之島図書館等の歴史的建造物、美術館、オフィスビル等が集積し、水都大阪の景観を形成している。
桜の名所であるとともに、アーチが特徴的な水晶橋が有名である。



新年のご挨拶

会長 北村 広外志

新年、明けましておめでとうございます。

皆様方には、お健やかに新年をお迎えになられたことと、お慶び申し上げます。

令和6年元旦の能登半島地震及び9月の能登半島豪雨により被災されました皆様に対しまして、心よりお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

さて、昨年中の主な出来事といたしましては、パリ五輪における日本選手の活躍や大リーグの大谷選手が3度目のMVPに輝くなど、嬉しいニュースもありました一方で、気象庁は、昨年の夏（6～8月）の全国の平均気温が平年より1.76度高く、一昨年と並んで1898年の統計開始以来最高と発表しました。

世界各地でも同様の傾向がみられ、まさに地球温暖化対策は待ったなしの状態といえます。

そうした状況を踏まえ、我が国においても、2050年「カーボンニュートラル」（二酸化炭素等温室効果ガスの排出量実質ゼロ）を目標に掲げ、グリーン社会の実現に向けて、本年4月から原則全ての新築物について省エネ基準への適合義務化が開始する等、更なる省エネルギー化に向けた取り組みが急務となっております。

空調衛生工事業界としましても、「脱炭素社会」の実現に向けた更なる取り組みが必要であります。

また、賃金の上昇が物価上昇に追いつかず、実質生活費面でのマイナスという苦しい状況がまだまだ続いております。

設備工事の状況は、大型プロジェクトの進捗などによるタイトな工程と、資機材価格の高止まりや、人材不足による労務費上昇で、厳しいコストで難しい施工管理を行わなければならない状況が続いております。

更に、改正労働基準法により昨年4月から罰則付き時間外労働時間の上限規制が適用となりましたが、会員の皆様においても、現場における業務の効率化・合理化等、生産性向上の一層の推進による時間外労働の縮減を図るなど「働き方改革」に懸命に取り組んでいることと存じます。

そこで、一昨年から日本空調衛生工事業協会が日本電設工業協会と共同で、適正な工期の確保、長時間労働の是正といった「働き方改革」推進に向け、公的発注機関、建設業団体等の各諸団体へ要請活動を展開しているところです。

当協会は、日本空調衛生工事業協会と連携を図りながら、建設業団体へ要請活動を行っているところです。

当協会は、昨年2月に社団法人として設立されてから満50周年の佳節を迎えたことを踏まえ、半世紀にわたる歩みと空調衛生工事業の未来社会を支える先導的役割等を記念誌として昨年7月に発刊致しました。

会員の皆様をはじめ関係各位にお配りするとともに、空調衛生工事業が魅力ある産業であることをこれからも発信してまいります。

最後になりましたが、協会活動の活性化と業界の更なる発展のために、会員・賛助会員皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げますと共に、各社の繁栄と皆様にとってすばらしい一年になることを祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

大阪府知事

吉村 洋文

新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃から建設業の振興を通じ、大阪府政の推進に格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

いよいよこの4月、大阪・関西万博が開幕します。2018年の開催決定以降、大阪府・大阪市一体で、国や博覧会協会、経済界などと連携し、この国家プロジェクトの準備に全力を尽くしてきました。本年は、その集大成となる「万博イヤー」です。

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、「未来社会の実験場」となる万博会場では、世界最大級の本造建築物「大屋根リング」が皆様をお迎えします。そして、次世代の太陽電池と呼ばれる「ペロブスカイト太陽電池」などが展開されます。地元自治体として出展する「大阪ヘルスケアパビリオン」においても、自身の健康データを元に25年後の姿に出会える「ミライのじぶん」や、iPS細胞による「自ら動く心筋シート」などの技術力や魅力を発信します。皆様もぜひ会場で、これまで想像もしなかったような「未来社会」を感じてください。

万博を契機に、世界中の人々をひきつけ、投資を呼び込み、大阪で挑戦する人材や企業が集まる流れを生み出していく。そのための新たな成長戦略、「Beyond EXPO 2025」を大阪府・大阪市で取りまとめ、速やかに具体化に着手します。

大阪・関西の強みであるライフサイエンス分野をはじめ、カーボンニュートラル、新モビリティなど、万博を機に芽吹いた革新的な技術の社会実装・産業化に向けた取組を加速させます。

また、昨年9月のうめきた2期の先行まちびらきに続き、夢洲や大阪城東部といった、成長を支える拠点となるまちづくりを推進するとともに、なにわ筋線や大阪モノレール、淀川左岸線など、成長を支える都市基盤の整備にしっかり取り組んでいきます。

人々の心に残り、明るい未来を切り拓く万博を実現する。全ての関係者の思いを一つに「万博イヤー」を駆け抜けます。そして、大阪を持続的に成長・発展させ、平時の日本の成長と非常時の首都機能のバックアップを担う「副首都・大阪」への確かな歩みを進めていきます。

こうした施策を推進していくためには、建設業に従事する人材の確保と皆様が安心して働くことができる環境づくりが重要です。貴協会におかれましては、未来を担う技術者・技能者の確保・育成等に取り組まれております。今後とも、大阪の建設業、大阪・関西経済のけん引役としてご活躍いただきますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人大阪空気調和衛生工業協会の今後ますますのご発展と、今年が皆様にとって実りある素晴らしい年となりますようお願いいたします。



新年のご挨拶

国土交通省 近畿地方整備局

営繕部長 中山 義章

明けましておめでとうございます。

一般社団法人大阪空気調和衛生工業協会並びに会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より官庁営繕事業の推進にあたり、格段のご支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、能登半島地震にはじまり、8月8日に日向灘で発生した地震を受け、初めての南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されるなど、近年激甚化、頻発化する自然災害に対する安全・安心の確保がますます重要となっています。

また、今後、高度経済成長期に整備された官庁施設の老朽化が進む中で、計画的かつ効率的に老朽化対策を進めることが求められています。

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、30年度までには新築建築物の平均でZEB Ready相当となることを目指すとされ、営繕部においては新築事業について原則ZEB Oriented相当以上を目指して整備を進めています。とりわけ建築設備分野で先導的な役割を担い、各種ノウハウを培われてきた皆様の技術力に大いに期待するとともに、その果たすべき役割もますます大きくなっているものと考えております。

また、今年開催される「大阪・関西万博」の準備は今まさに佳境を迎えており、皆様方のお力添えが不可欠であります。近畿地方を盛り上げるためにも、引き続きのご理解とご協力についてお願いいたします。

さて、建設業界では、人材不足や高齢化などのさまざまな課題を抱えるなか、昨年6月には、持

続可能な建設業の実現と、そのために必要な担い手の確保を目的として、いわゆる「担い手3法」が改正されたところです。

近畿地方整備局営繕部においても、「生産性向上」や「働き方改革」を一層進め、労働環境を改善し、やりがいと達成感のある「建設業界」となるよう努めていきたいと考えております。

営繕事業における働き方改革としては、時間外労働の上限規制や猛暑による作業不能日を考慮した適正な工期設定、週休2日の推進のほか、現場実態を反映した適正な予定価格の算定や必要な契約変更の円滑な実施等に取り組んでおり、円滑な事業推進による質の高い官庁施設の整備を着実に進めて参ります。

また、営繕工事では令和5年度より、全ての新営設計業務及び新営工事の「BIM」活用において「EIR（発注者情報要件）」を原則適用とし、更なる活用を図ることとしており、昨年10月にはその理解の促進を図るため「営繕BIMモデル」を公開しました。

引き続き、時代の要請にこたえる施設整備を行うための環境整備に日々努力を重ね、関係省庁や地方公共団体と共有することで普及につなげてまいりたいと考えております。

最後になりますが、空調衛生工事の重要な担い手である皆様のこれまでのご尽力・ご活躍に敬意を表しますとともに、今後とも業界がより一層発展されることを期待し、また、貴協会並びに会員の皆様にとって本年が更なる飛躍の年となることを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和7年新年交礼会

賑やかに「乙巳」スタート



年頭の挨拶を述べる北村会長



来賓挨拶を述べる中山営繕部長（左）と松尾設備課長（右）

令和7年新年交礼会は、1月15日午後6時から大阪・難波のスイスホテル南海大阪で関係官庁・団体、近畿各府県空衛協会からご来賓をお迎えし、約300名の参加者で開催しました。

北村広外志会長は年頭挨拶で、冒頭、能登半島地震及び集中豪雨で被災された方々にはお見舞いを申し上げ、「昨年、明るいニュースの一方で、夏の平均気温が一昨年と同じ我が国の観測史上最高となり、わが国でも2050年カーボンニュートラルに向け更なる省エネ化への取組みが急務。」と述べました。

さらに、北村会長は、「昨年4月からの時間外上限規制を踏まえ、特に現場での一層の生産性向上による働き方改革を進めるとともに、適正工期の遵守や適正な労務費の確保に向け、関係団体と共に発注者等に要請を継続していく。」と述べるとともに、「昨年の設立50周年を契機に、今後も業界の魅力を発信してまいりたい。」と挨拶しました。

ご来賓の国土交通省近畿地方整備局営繕部長・中山義章様は、祝辞の中で、本年4月開幕の大阪・関西万博の成功を祈念するとともに、「2050

年カーボンニュートラルの実現に向け、新築の場合は原則 ZEBO 相当以上を目指す。」との取り組みを示されました。また、「そのためには、建築設備分野で先導的役割を担い、各種ノウハウを蓄積した皆様の技術力に大いに期待するとともに、その果たすべき役割も益々大きくなっている。」と挨拶されました。

また、ご来賓の大阪府都市整備部住宅建築局公共建築室設備課長・松尾博司様は、「ZEB 化推進方針により府有施設の新築の場合、原則 ZEB Ready 相当以上の整備を行う。」との取り組みが



「乙巳」の門出を祝って乾杯する城口副会長



年賀の挨拶を交わしながら和やかに交歓

示されました。

また、府の取組として、「建築物の省エネ化等に効果的な ESCO 事業では、これまで計119施設を達成しており、また府内市町村においても一層の普及啓発を行う。省エネ、脱炭素化に向けては、皆様のノウハウ、技術力が不可欠なので、貴協会に大いに期待する。」と挨拶されました。

城口俊雄副会長の「カンカン乾杯」の発声で杯を上げたあと、祝電が披露され、賑やかに交歓し

ながら新年の挨拶を交わしました。

最後に木村之彦総務委員長の音頭で大阪締めを行い、交礼会を終えました。



閉会の辞を述べる木村総務委員長

神奈川県横浜市に全国から約400名参集



挨拶する藤澤会長

日本空調衛生工事業協会（日空衛 会長 藤澤 一郎氏）の第29回全国会議が令和6年10月17日に神奈川県横浜市の横浜ロイヤルパークホテルにて約400名で開催された。藤澤会長は、「人手不足は一朝一夕では解決せず、いかに工事を省力化出来るかが課題で有り担い手確保には働き方改革が必要不可欠である」と述べた。新たなビジョンの主題として「持続可能な社会への貢献、魅力ある空調衛生工事業への挑戦！」を掲げ

- ※2050年カーボンニュートラル（CN）への貢献
- ※生産性向上への挑戦
- ※社会的信頼の確保と発信
- ※魅力ある空調衛生工事業への変革

※健全な経営環境の構築
※業界全体の活性化に向けた取り組み
上記重点6項目を位置付けた。
続いて来賓からは国土交通省 不動産・建設経済局の平田 研局長が挨拶をされた。

その後、講演1及び2が行われ、最初にジャーナリストの河合雅司氏が「人口減少日本で起こること～建設設備業のこれから～」を紹介し続いて株式会社大川印刷の大川哲郎氏による「SDGsを活用した地域中小企業による新たな需要開拓」をテーマに講演された。

このほか株式会社崎陽軒の野並 晃社長と神奈川県空調衛生工業会の有井 清会長が「異業種企業に学ぶローカルの『味力』は世界に通ず」についての対談をした。

会議終了後、立食方式の懇親会が開かれ情報交換・意見交換が行われた。



会議風景

第14回配管技能コンテスト開催

技能者、学生・生徒計40名が腕を競う

学生の部 専門学校生・梅田千里さん優勝

大阪空気調和衛生工業協会（北村広外志会長）主催の第14回配管技能コンテストが9月28日、大阪府東大阪市の府立東大阪高等職業技術専門校で開催され、一般技能者、専門学校生・高校生合わせて40名が腕を競った。

このコンテストは、次代の優秀な技能者の育成をめざし、全国の空調衛生設備団体の中で唯一、同協会が実施しているもの。協会のコンテスト実行委員会が運営に当たったほか、布施工科高校など多くの教諭が審査委員・審査補佐委員としてバックアップした。

一般の部 定行良太氏が接戦を制し栄冠



北村会長の開会挨拶



一般の部上位入賞者（前列）



学生の部上位入賞者（前列）



学生の部優勝・梅田千里さん



一般の部優勝・定行良太氏



競技の様子（一般の部）



競技の様子（学生の部）

開会式で挨拶に立った北村会長は、学校や関連団体など運営関係者の協力にお礼を述べ「現役の配管工と建築設備を学んでいる学生が一堂に会し技能を競うコンテストは全国でも当協会だけが実施している。皆さんが技術力を磨き一段と向上することを願っている」と激励した。

コンテストには現場の第一線で活躍する技能者23名（一般の部）、建築設備関連の学科を履修中の北大阪高等職業技術専門学校、大阪工業技術専門学校、布施工科高校、東住吉総合高校、彦根工業高校の学生・生徒17名（学生の部）が参加。一般の部では1級配管技能士検定レベル、学生の部では同3級レベルの課題作品制作に挑戦した。

作品はサイズ誤差、出来栄え、水圧試験による漏れ検査などで審査され、学生の部では北大阪高等職業技術専門学校の梅田千里さんが見事優勝に輝き、大阪府知事賞を受賞、大阪府商工労働部雇用推進室人材育成課産業人材育成グループ課長補佐・竹井紗江子氏からご挨拶のあと、同賞が手渡された。

準優勝は大阪府立布施工科高等学校の稲田春磨さんが獲得し、以下、3位・中村誠さん（大阪府立布施工科高等学校）、4位・福山智恵利さん（大阪工業技術専門学校）、5位・寺前孔大さん（大阪府立東住吉総合高等学校）が受賞した。

布施工科高校の中井宏典校長より、学生の部の参加者に激励と期待のご挨拶があった。

一般の部では藤井設備の定行良太氏が優勝し、大阪府職業能力開発協会会長賞が授与された。準優勝は大谷設備の加藤洋氏、3位・前田大輝氏（ツカサ）、4位・中村昭文氏（東和管工）、5位・石浜康氏（藤岡工業）がそれぞれ受賞した。

競技終了後に行われた表彰式で小池清隆審査委員長（布施工科高校教諭）は学生の部について「上位者は丁寧な仕上がりだった。」と講評し、一般の部についても「上位者はほんの僅かの差であり完成度も高かったと」評価し「学生もプロの技術をまじかに見ることができていい経験になった」と講評した。

また、挨拶に立った同協会の西岡実行委員長は「現場を支えているのは熟練技能者であり、これからはさらに技術を磨いてほしい。当協会も、このコンテストを通じて、熟練技能者の育成、後継者の育成に寄与していきたい。」と総括し、参加者にエールを送った。

配管技能コンテストに参加して

☆☆優勝(大阪府知事賞)☆☆

大阪府立北大阪高等職業技術専門学校

梅田 千里



配管技能コンテストという素晴らしい舞台で、建築設備を学ぶ学生の皆さんと共に挑戦できたことは、私にとってかけがえのない経験となりました。大会当日は、自分が納得のいく作品を作り上げることだけを目標に、制限時間まで懸命に取り組みました。課題を提出した際には、多くの方々から温かい労いの言葉をいただき、それが今も心に深く残っています。

これまで、こだわりが強く作業に時間を費やしてしまう自分に迷いもありましたが、今回のコンテストではこだわりを持って丁寧に制作した部分が評価され、喜びとともに感謝の気持ちでいっぱいです。このような経験と評価をいただけたことに、心より感謝申し上げます。

☆☆準優勝☆☆

大阪府立布施工科高等学校 稲田 春磨

今回の配管コンテストを通して寸法の大切さを学びました。練習では寸法が正確に出ずに何度もやり直しました。また、チーズの接合部に誤ってエルボを接合してしまうなど、たくさん失敗しました。そのため先生方の助言をノートにまとめるなど工夫を行い作業1つ1つのミスをなくし、寸法も正確に出すことができました。

当日のコンテストでは、入賞できるか心配でしたが、練習中に失敗した事や先生方の指導などをしっかり覚えていたので満足のいく作品ができました。特に鋼管のねじ切りと塩ビ管との接合部分では練習してきた中で一番寸法が正確に出ました。

今回2位に入賞することができたのは、遅くまで練習させてくださった先生方のおかげだと思います。来年は、優勝できるように頑張りたいと思います。

☆☆3位☆☆

大阪府立布施工科高等学校 中村 誠

私は、2年生の時に配管コンテストに出場しました。練習も沢山したのですが、よい結果は出ませんでした。今回の大会は自分にとって最後のコンテストになるため何とか入賞したいと思いました。

そのため、昨年を思い出してよく考えました。水漏れはなかったと思いますが、寸法精度がまだまだ甘かったことが、よい結果に至らなかった原因だと思いました。

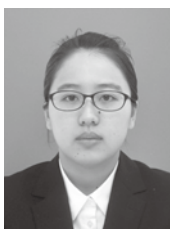
そこから放課後に毎日練習をしました。寸法をしっかりと出すために何度も測って切るなどを繰り返し行いました。また、銅管のろう付けでは、ダメにならないように心掛けながらも漏水しない量をしっかりと確認しました。

コンテスト本番では、練習で培った失敗の経験が活かされて、3位に入賞することができました。遅くまでご指導いただいた先生方に感謝し、また運営に携わっていただいた皆様にも感謝申し上げます。ありがとうございました。

☆☆4位☆☆

大阪工業技術専門学校

福山 智恵利



今回の配管技能コンテストでは、後期の授業や他の試験勉強などがあり、限られた時間の中で、練習を行ってきました。そのため、1回1回の練習で質の高いものを作ることを意識しながら練習しました。当日は思っていたよりも人が多くて緊張してしまい、練習の時よりも慌ててしまい、少し悔しい気持ちがありますが、入賞することができ、とてもうれしく思います。このような技術を身につけることができたのも先生のご指導のおかげだと感じています。今回、配管技能コンテストに参加して、できた部分とできなかった部分を知ることができたので、今後の授業や就職先でも生かしていきたいと思いました。

☆☆5位☆☆

大阪府立東住吉総合高等学校

寺前 孔大



私は、配管コンテストでたくさんのことを学びました。学校で学ぶ実習は中学校とは違い、本格的なものが多く、この配管技能も初めは全くわからないことばかりでした。2年次の配管実習で興味をもち、3級配管技能検定を受験しました。専門用語も徐々に覚え、工具の扱いにも慣れた頃からは、モノづくりの楽しさを感じれるようになりました。コンテストでは、練習を重ね、1mmの誤差がないよう何度も確認しながら進めました。規定値の水圧試験は学校ではできず、水漏れが当日の一番の心配でした。結果は5位と嬉しさもありましたが悔しかったです。独特な緊張感など、貴重な経験をさせてもらいました。ありがとうございました。

令和6年度

安全衛生大会を開催



令和6年度安全衛生大会を昨年10月3日に大阪市西区の建設交流館8階グリーンホールで開催しました。

優良工事現場を表彰するとともに安全講話を聴講し安全衛生・労働衛生を誓い合いました。

大会は関係官庁や友好団体から多数のご来賓をお招きし約200名が出席。最初に業界でこの1年間に不幸にも事故などで亡くなられた方々に対して黙祷をささげご冥福をお祈りしました。冒頭挨拶で北村広外志会長は「労働災害の内容として死傷は墜落・転落が最も多い。墜落・転落による労働災害を防止するために本年4月から改正労働

安全衛生規則が全面施行され足場からの墜落防止措置の徹底を図るとともにフルハーネス型墜落制止器具の使用に努めているところだ。安全管理や労働衛生教育・リスクアセスメントによる安全な作業により一層取り組んでいく必要がある」と呼びかけました。

続いて、大阪中央労働基準監督署の安全衛生課長・高野清司様から来賓挨拶をいただきました。高野様は、「それぞれの職場において、労働災害の防止・労働衛生管理活動の重要性を確認いただき安全に働ける職場環境の整備、働きやすい職場環境づくりに向けて、さらに前進して欲しい」と



挨拶する北村会長



来賓挨拶される高野安全衛生課長

挨拶されました。

このあと、安全衛生優良工事現場の表彰式に移り、優良事業所20社を表彰しました。

受賞者代表が、北村会長から表彰状を受け取り、同代表が『安全の誓い』を力強く読み上げました。

引き続き、参加者全員で労働安全スローガン『危険に気付くあなたが目 そして摘み取る危険の芽 みんなで築く職場の安全』と労働衛生スローガン『推してます みんな笑顔の健康職場』を斉唱して作業の安全を誓い、大会第一部を終了しました。

小憩の後、第二部の特別講演に入り、ジャーナリスト/ノンフィクション作家の門田隆将氏が、「歴史の岐路に立つ日本の決断」と題して講演されました。

最後に、福地労務委員長が閉会の辞を述べ、大会を終えました。



会長より工事表彰



受賞者代表による「安全の誓い」



特別講演する門田隆将様



閉会の辞を述べる福地労務委員長

表彰会社名 (20社)

株式会社朝日工業社大阪支社
株式会社クドウエンジニアリング
敷島煖房工業株式会社
大晃設備株式会社
株式会社不二設備工業所
株式会社マサキ設備
柳生設備株式会社

浦安工業株式会社大阪支店
三機工業株式会社関西支社
株式会社精研
ダイダン株式会社大阪本社
不二熱学工業株式会社
丸住株式会社
若林設備工業株式会社

木村工業株式会社
三神工業株式会社大阪支店
ダイクウ株式会社
株式会社日設関西支店
株式会社前田商会
美和設備工業株式会社

官公庁との懇談会

国土交通省近畿地方整備局営繕部

(一社) 日本空調衛生工事業協会近畿支部は、昨年11月28日、シティプラザ大阪で国土交通省近畿地方整備局営繕部との懇談会を開催し、国における「労務費の基準」の検討状況、建築工程の遅れによる設備等の後工程への対応、資材の上昇に伴う物価スライドの書類の簡素化、技術者不足に対応した発注方式等について質疑応答を行った。

今回の第20回懇談会には国交省から5人、近畿支部から13人が出席。国における「労務費の基準」の検討状況についての質問に、国交省側から「中央建設業審議会において、工事規模に応じた単価のあり方等、建設業団体の意見も踏まえ検討中。」との取組みが示された。また、建築工程の遅れによる設備等の後工程への対応については、「工期延期を含め柔軟に対応している。」との取組みが示された。資材の上昇に伴う物価スライドの書類の簡素化については「基準日における出来高に関する資料をお願いしている。」と回答があった。その他、技術者不足に対応した発注方式については、「参加資格要件の実績については、昨今の入札状況を踏まえ緩和を行っている。」との取組みが示された。このほか、国交省から情報提供があった。



大阪府都市整備部住宅建築局公共建築室設備課

(一社) 大阪空気調和衛生工業協会は、昨年11月18日にシティプラザ大阪で大阪府都市整備部住宅建築局公共建築室設備課との懇談会を開催し、低入札価格調査制度、資材の上昇に伴う物価スライドの書類の簡素化、府営住宅へのZEHの検討状況等について質疑応答を行った。

懇談会には大阪府から4人、大空衛から10人が出席。低入札価格調査制度について、大阪府からは「ダンピング助長防止のため失格基準価格を設定しており、国の指針を踏まえその都度見直しを図っている。」との回答があった。資材の上昇に伴う物価スライドの書類の簡素化について、「協議時点での出来高算定のための必要最小限の書類を求めている。」との回答を得た。府営住宅へのZEHの検討状況については、「本年度にZEH基準を満たす府営住宅の標準設計を踏まえた実施設計業務を発注済み。」との回答があった。その他、入札・契約から支払いまでを全てオンラインで行える「大阪府電子契約システム」を令和7年1月から導入予定との説明があった。このほか、大阪府からの質問や報告事項について、意見・情報交換した。



賛助会員「新技術・新商品説明会/懇親会」開催



新技術・新商品説明会の模様（円内は挨拶する綾目経営委員長）

令和6年11月19日に大阪市北区のハービスENTオフィスタワー9階会議室で賛助会員による新技術・新商品説明会を開催しました。説明会のあとは会員・賛助会員が交流する懇親会も開いて親睦を深めました。

説明会には賛助会員から新技術・新商品紹介として4社が参加、会員・賛助会員合わせて84名が出席。武田経営委員による司会で説明会を開会し、冒頭、当協会の綾目圭志経営委員長から、「本交流懇親会は、平成29年から実施し今回で8回目の開催となります。

今回は4社様から応募がございましたが新技術あるいは新商品でなければと躊躇されている賛助会員がおられるかもしれませんが、これまでの蓄積された技術で有ったり、これまでの商品のバージョンアップといったものも説明の対象に成りますので、ふるって応募していただきたい」と述べました。

説明会は、別表のプログラムにより、前半の部では、2社から説明の後、小憩。後半の部では、2社から説明がありました。

最後に、辻経営副委員長から閉会の辞がありました。

懇親会で和やかに交歓

説明会のあと、会員・賛助会員合わせて70名が参加の懇親会をハービスOSAKA 6階「ガーデンシティクラブ大阪」で催しました。各テーブルでは名刺交換しながら賑やかに交流し、当協会の北村広外志会長は閉会にあたり、新技術・新製品を説明した賛助会員と参集者へお礼を述べられ威勢よく三本締めを行い、散会しました。



懇親会で挨拶する北村会長



懇親会の風景

【説明会プログラム】

No	会社名	新技術・新商品（概要）
1	(株)川本製作所	<p>●直結増圧 直列多段給水方式</p> <p>大阪市水道局で導入されてから7年が経過しますが、本年度広島市でも導入が開始され、全国の自治体でも導入が進んでおります。</p> <p>受水槽を置かずに水道本管から直接ポンプを経由して建物に給水する直結増圧給水方式ですが、従来は15階程度の建物にしか適用できませんでした。</p> <p>直列多段給水方式では、ポンプを直列に設置することで階高の制限がなくなり、更なる高層建物にまで直列給水方式を適用できるようになりました。</p> <p>改めて、給水方式の特徴やメリット、注意点等をご説明させていただきます。</p>
2	因幡電機産業(株)	<p>●エアハン用ドレントラップ</p>
3	イシグロ(株)	<p>●建設DX ワンストップサービス</p> <p>※ BIM を活用した施工管理～進捗・納品の可視化</p> <p>※ 3D スキャナによる計測・設計・施工</p>
4	T O T O (株)	<p>●きれい除菌水</p> <p>コロナウイルスなど、想定していない環境変化より、日常生活での清潔さを求める声が非常に高まっております。</p> <p>弊社でご提供させていただいております、きれい除菌水の機能は、トイレ（ウォシュレット）・キッチン・洗面・ユニットバスの用途に使われており、10年ほどの実績があります。</p> <p>当日はこちらについてご説明させていただきます。</p>



株川本製作所による説明



因幡電機産業株による説明



イシグロ株による説明



TOTO 株による説明



第一部閉会の辞の辻経営副委員長



司会進行の武田経営委員

衛生設備ニュース 12

sanitary accommodations news 2024.Dec

No.043

□ 機器 □ 給水 □ 給湯 □ 排水
□ 器具 ■ 消火 □ ガス □ 環境 □ 他

一般社団法人 大阪空気調和衛生工業協会

スプリンクラー設備用ポリエチレンパイプ

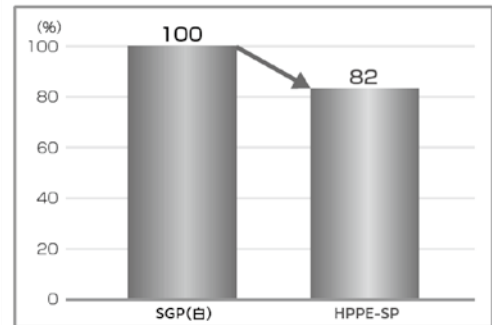
スプリンクラー設備配管にポリエチレンパイプの採用が可能となりました。
消防庁告示第19号に基づく（一財）日本消防設備安全センターによる登録認定を取得したことで
個別申請なしにアラーム弁以降の湿式スプリンクラー設備配管に使用出来ます。

■特徴

- ① 錆びない
金属とは異なり、樹脂製のため錆びの心配がなく、優れた耐食性がある。
- ② 軽量で施工が容易
金属管と比較して軽量であるため、天井での作業が容易となります。管体が柔軟なため、現場での切断も容易である
また、熟練不要なE F 接合により、省人化や施工品質の向上にも繋がる。
- ③ 施工時間を短縮
軽量で施工性に優れるため、金属管と比較して施工時間を短縮することが出来ます。
- ④ CO₂排出量が少ない
金属管と比較して製造時のCO₂排出量が少なく環境負荷の低い配管材です。

呼び径	SGP(白)	HPPE-SP	重量比
40	3.9	0.8	▲79.4%
50	5.3	1.3	▲75.5%
75(80)	8.8	2.2	▲75.0%
100	12.2	4.2	▲65.6%

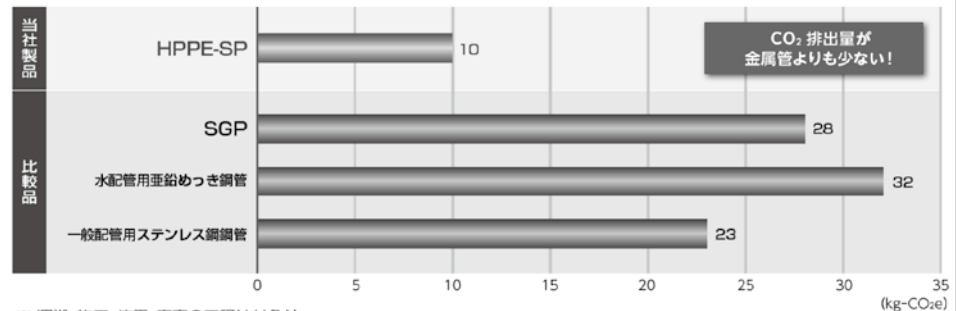
SGP(白)とHPPE-SPの施工時間比較
SGP(白)を100とした場合の比率



④ CO₂排出量が少ない

金属管と比較して製造時のCO₂排出量が少なく、環境負荷の低い配管材です。

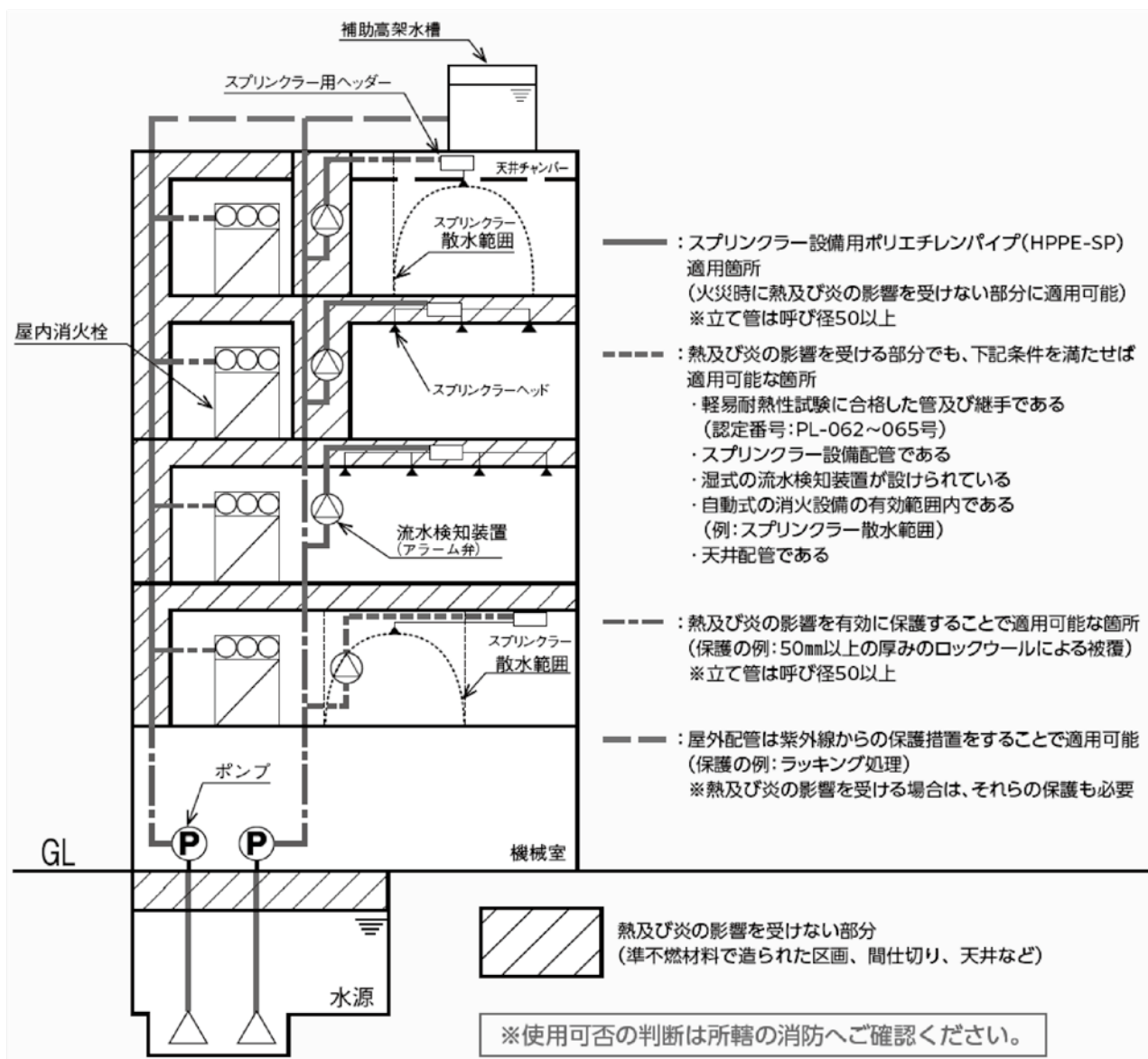
製造工程（原料調達～成形工程）における1m当たりのCO₂排出量評価（呼び径100）



※ 運搬・施工・使用・廃棄の工程は対象外

※ 比較品のCO₂排出量については、公表されている製品重量や産業技術総合研究所及びサステナブル経営推進機構【IDEA ver2】の影響評価計数(GHG排出原単位)より試算した参考値

■適用箇所



■登録認定の内容

呼び径	最高使用圧力	認定番号	型式番号
40	1.0MPa	PL-065号	KCPE-SP04
50	1.0MPa	PL-064号	KCPE-SP03
75	1.25MPa	PL-062号	KCPE-SP01
100	1.25MPa	PL-063号	KCPE-SP02

※仕様などは「クボタケミックス」のHPより抜粋

R32冷媒ビル用マルチエアコンについて

〇はじめに

2050年カーボンニュートラル、2030年度温室効果ガス46%削減の実現に向け、冷暖切替型ビル用マルチエアコンの低GWP冷媒化[※]が2025年度から開始になります。(冷暖同時型の低GWP冷媒化の切替時期は未定です。) 2025年4月以降、冷暖切替型ビル用マルチエアコン(新設用)はこれまでのR410Aではメーカーは出荷できなくなります。

※GWP: Global Warming Potential (CO2を1とした地球温暖化係数)

〇微燃性冷媒を使用したビル用マルチの設計

R32冷媒は微燃性ガスのため冷媒漏洩時の安全に配慮する必要があります。そのため、日本冷凍空調工業会において微燃性冷媒の取扱いを定めたガイドライン(JRA GL-20^{※1}・JRA GL-16^{※2})が制定されました。

※1) GL-20: 特定不活性ガスを使用した冷媒設備の冷媒ガスが漏洩した時の燃焼を防止する適切な措置を定めたガイドライン

※2) GL-16: 微燃性(A2L)冷媒を使用した業務用エアコンの冷媒漏洩時の安全確保のための施設ガイドライン

〇安全対策の要否判定

微燃性冷媒を使用したビル用マルチエアコンを設置する場合、安全対策が必要か不要かの確認を最初に行う必要があります。冷媒漏洩時の安全対策判定についてのフローチャートを図1に示します。

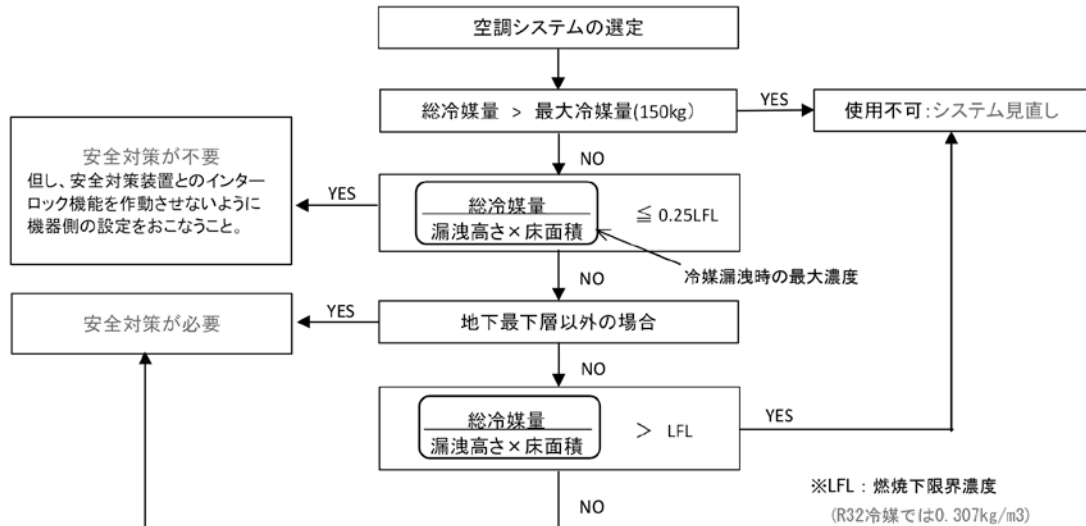


図1. ビル用マルチエアコン室内機の安全対策判定フローチャート

図1に示すように、ビル用マルチエアコンの場合の安全対策要否判定は以下の手順になります。

- ①ビル用マルチの「総冷媒量」(初期充填量+追加充填量)を算出し、「システム最大冷媒量」を超えていないか判定。
- ②「システム最大冷媒量」を超えていない場合は、部屋毎に「総冷媒量」を「漏洩容積[※]」で除し「冷媒漏洩時の最大濃度」を算出し、燃焼下限界濃度(LFL)の1/4を超えていないかを判定。超えていなければ安全対策不要となる。
※漏洩容積の計算に用いる漏洩高さは、床面から冷媒漏洩想定箇所までの高さであり室内機タイプによって異なるが、天井カセット・天吊・壁掛タイプの場合漏洩高さは室内機設置高さとなる。
- ③「冷媒漏洩時の最大濃度」が燃焼下限界濃度(LFL)の1/4を超える場合、該当室には安全対策が必要となるが、地下最下層の部屋において「冷媒漏洩時の最大濃度」が燃焼下限界濃度(LFL)を超えている場合は使用不可(システム見直し)となる。

○具体的な安全対策

安全対策が必要と判定された場合、該当室には必ず①検知・警報設備が必要となります。それに加えて、②機械通風装置か③遮断装置のどちらかを設置しなければなりません。これらの安全対策はGL-20、GL-16ガイドラインで設置基準等の要求事項が規定されています。

①検知設備・警報設備

- ・検知器を室内に設置する場合、漏洩想定箇所の中心から10m以内に1個以上の検知器を設置。また、検知器設置高さは漏洩高さよりも低い位置であり、かつ室の床面から30cm以内の高さとする。
- ・検知器を室内機の内部に設置する場合、検知器の設置高さは室内機内面から垂直方向に30cm以内とする。
- ・警報装置は検知器からの漏洩信号を受けて、ランプ点灯または点滅と同時に警告音を発ししなければならない。
- ・自主避難出来ない人々がいる施設、または不特定多数の人々が自由に出入り出来る施設の場合は、監視室に接点等で警報を出す必要がある。

②機械通風装置

- ・R32冷媒の場合、163m³/h以上の換気量が必要。
- ・24時間常時運転とし管理者以外が停止したりメンテナンス以外で停止出来ないようにするか、または冷媒漏洩検知によって冷媒漏洩時に自動的に作動させなければならない。

③遮断装置

- ・検知器の冷媒漏洩信号によって冷媒回路を遮断しなければならない。
- ・設置位置は対象となる部屋の外側(天井内は可)で、点検者が点検可能な位置に設置しなければならない。

(注1) これらの安全対策はビル用マルチエアコン用のため、店舗用エアコンには採用できません。店舗用エアコンの場合は、冷媒漏洩時の最大濃度が燃焼下限界濃度(LFL)の1/4を超えた時点でシステム見直しとなり、冷媒系統を分割するなどして総冷媒量を減らす必要があります。

(注2) 建物の用途で間仕切りが追加される場合は、基準ガス濃度を超える可能性があるため、計画段階で安全対策を検討する必要があります。

○定期点検・整備の必要性について

安全対策装置の設置が必要となった場合、継続してご利用いただくため定期点検を実施していただく必要があります。

名称		点検期間	交換期間	点検方法
インターロック回路		1回/年以上	—	<ul style="list-style-type: none"> ・冷媒漏えいを想定し警報装置が発報するとともに、安全遮断弁が機械換気装置が確実に動作することを確認 ・エアコン又は検知器に搭載される機能を利用してもよい
安全遮断弁		—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・施工時において冷媒漏えいしていないことを確認し、冷媒漏えい検査シートを作成し管理する ・機能付属の取扱説明書に従って点検を行う
検知器 <small>※詳細は参考資料を参照</small>	性能1	1回/年以上	規格を満足しなくなった場合	JRA 4068 及び検知器付属の取扱説明書に従って点検を行う
	性能2	—	設置又は交換してから5年(5年後に正確度を満足する校正を行えば継続使用可、ただし1回/年以上の定期点検必要)	
	性能3	—	設置又は交換してから5年後	
警報装置		1回/年以上	—	<ul style="list-style-type: none"> ・警報装置に関わる回路の検査で警報を発することの確認及び付属の取扱説明書に従い点検を行う ・また関係者常駐する場所(遠隔監視センター含む)へも聴覚及び視覚両方で警報を発することになっているので、この動作確認も併せて行う
機械換気装置		—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・機器付属の取扱説明書に従って点検を行う ・併せて風路に障害物がないことも確認する

表1. 各安全装置の定期点検期間と交換期間

(日本冷凍空調工業会：「微燃性(A2L)冷媒を使用したビル用マルチエアコンを安全にご使用いただくために」ガイドブックより抜粋)

○設計支援

各エアコンメーカーより、R32冷媒ビル用マルチエアコンを設計する際の安全対策要否判定計算ソフトがダウンロード出来ますので以下に紹介します。

ダイキン工業株式会社：<https://daccs3.daikin.co.jp/vrc/>

三菱電機株式会社：https://www.mitsubishielectric.co.jp/ldg/wink/ssl/searchCalcSoft.do?isid=SEKKEISIEN_SOFT

日立グローバルソリューションズ株式会社：<https://www.hitachi-gls.co.jp/kentatsu/support/r32safetycheck>

※出典：日本冷凍空調工業会 「微燃性(A2L)冷媒を使用したビル用マルチエアコンを安全にご使用いただくために」
「JRA-GL20ガイドライン(2022年)」
「JRA-GL16ガイドライン(2023年)」

第3次担い手三法、時間外上限規制等で意見・情報交換

当協会と関西配管工事業協同組合、近畿ダクト工事業協同組合、近畿保温保冷工業協会が構成する第41回4団体協議会が下記により開かれ、「第3次担い手三法」、時間外労働の上限規制への対応等について、意見・情報を交換しました。

- ・日時 令和6年7月29日
- ・会場 新トヤマビル3階貸会議室
- ・出席人数 13名

初めに、事務局から、「第3次担い手三法」等について、説明の後、意見が交わされました。

この中では、「労務費確保のイメージグラフは、1次2次下請事業者にも材料費が含まれるという請負構造の労務費確保のイメージグラフとすべき。月給制ならまだしも、日給月給制がまだまだ多い現状の中で、働き方改革で働けなくなる、給与が減るような対応は現実的ではない。」といった声が出された一方で、「今の若い方が上限なしで働くという意識が少なくなっている以上、担い手確保という観点から、ワークライフバランスを踏まえた国を含めた社会全般の意向が入っているのではないか。」との声もありました。

次に、罰則付き時間外労働の上限規制への各団体（企業）の対応状況等について、意見が交わされました。この中では、「時間外労働規制について、6か月間で月あたり45時間以上の時間外が続いているような社員がどの程度いるのか、確認して対応しているところ。アラームが鳴るようにして、それ以上働かせないような対策を進めている。元請側でも、工程がプラス2～3か月伸び始めている。休みが確保できる4週8閉所の現場対策が確実に進んでいるが、全部がそうなるかといえば、改修等もあるのでそうはならない。これまで4週4休で働いていた人達の給与が下がることの課題は認識している。」といった声がある反面、「罰則付き時間外労働規制に対して、適用からまだ4か月程度なので、特別に何かをしているという訳ではない。」との意見がありました。

その他、適正工期への対応について、事務局から説明の後、意見が交わされました。その中では、「建設工事と設備工事が一部重複しているのが工程上遅れている原因なのか定められない。だから、重複させないようにとはなるものの、そういう訳にはいかない現状がある。自分の会社で請けている現場はいいが、協力業者に協力してもらっている現場などは、工程がずれ、その協力会社によその現場に行かれたらもっと迷惑をかける。CCUSが機能すれば、どの工程にどのレベルのどの職種の作業員がどれだけの時間携わったのかをデータ化できるので、把握できるはずが、それを阻害しているのが、元請の安全管理書類が統一されないから、問題が解消されないように思われる。」といった声がありました。安全管理システムについては、「元請の安全管理書類とCCUSを連携させても、元請の守秘義務情報の関係で、下請け事業者が活用できない状況になっている。CCUSの目指す先には、作業員情報の共有化を含めて、理想的な形としては計画されているので、安全管理システムの統合の必要性を国土交通省に働きかけるべき。」といった意見が出されました。



第41回会合

また、第42回4団体協議会が下記により開かれ、「標準労務費（労務費の基準）」、「時間外上限規制への対応」等について、意見・情報を交換しました。

- ・日時 令和6年11月25日
- ・会場 新トヤマビル3階貸会議室
- ・出席人数 13名

初めに、事務局から、罰則付き時間外労働の上限規制への各団体（企業）の対応状況について、説明の後、意見が交わされました。

この中では、「当社では、現場管理における「事務処理」「施工管理」「CAD」「品質管理」の4つのサポートを実施する部署を設け、現場の技術者を支援するとともに、現場作業の時間外業務が一定時間を超過した場合、アラートで注意喚起し、時間外業務の削減をサポート。」との声が出された一方で、「現場の若年層について、作業の進め方に多くの時間、労力を費やしているため、作業の標準化を図ることにより、業務の削減を目指す。実際の現場では、施工図の作成等に半分以上の労力を費やしている。BIMは進んでいるが、まだ使いこなすには時間がかかる。」との声がありました。

次に、標準労務費（労務費の基準）について、事務局から、説明の後、意見が交わされました。その中では、「ひと昔前は、作業員の年収が現場の技術者よりも高かったが、今は、技術者の年収の方が上回っている。材料費は上がっているが、労務費が上がっているという実感がない。下請けまで行き届いていない。」との声が出された一方で、「受注にあたってのサブコンの積算単価は確実に上がっていると感じる。また、現場の状況等により労務費の割増を要求しているケースがある。中央建設業審議会ワーキンググループにおける労務費の基準の設定にあたっては、そのプロセスを見える化してほしい。でないと意見を言えない。」との意見があり、事務局からは、「中央建設業審議会ワーキンググループでは、今後、型枠工、鉄筋工をはじめとして順次、職種別に検討を

進めていくとのことなので、設備関係の職種へのスケジュール、方法等について、日空衛に確認したい。」との回答がありました。

その他として、手形等のサイトの短縮（公正取引委員会）及び建設業団体に対する日空衛及び日本電設協との共同要請について、事務局から、説明の後、意見が交わされました。

また、3団体から、当協会に対して、「施工環境の正常化と契約に関わる嘆願書（仮題）」なる文書が提出され、説明の後、併せて、日空衛会長から会員宛発出の「働き方改革関連法」遵守及び適正な契約変更に関するお願いについて、事務局から、説明の後、意見が交わされました。その中で、「現場に関わる諸問題について、3団体の組合員の切実な要望を嘆願書（仮題）として、大空衛へ提出させて頂いたが、一提案として受け止めてほしい。」との声があり、当協会から、「現場の切実な問題が提起されている。例えば、図面については外注しているのが実態で、修正が追いつかないのが実情。今後は、施工図ベースの図面をBIMで作図することを目指す。未だ、道半ばの状態。日空衛を含む業界として、現場の仕組みを変える必要があるのでは。また、現場の環境管理について、設備等の下請けへの配慮がなされていないケースがあるので、元請への要望も必要ではないか。今後、当協会の経営委員会で嘆願書の取り扱いを協議したい。」といった声がありました。



第42回会合

第51回野球大会

(株)朝日工業社が3連覇

優勝 (株)朝日工業社大阪支社	準優勝 須賀工業(株)大阪支社
第3位 大晃設備(株)	第4位 (株)テクノ菱和大阪支店

最優秀選手賞 (株)朝日工業社大阪支社 木原 崇志選手
敢闘賞 須賀工業(株)大阪支社 岩井 秀文選手

第51回野球大会は、晴れ渡る秋空の下、令和6年10月21日・22日・28日の3日間にわたり、スカイランドHARADA多目的運動広場で開催されました。16チームでの熱戦が繰り広げられた結果、2年連続優勝の(株)朝日工業社が須賀工業(株)に17対3で勝利をし3年連続の優勝を勝ち取りました。

開会式で挨拶に立った北村会長は「この大会は当協会の伝統ある行事です。設備工事業界の次代を担う選手の皆さんは、くれぐれも怪我のないよう楽しくプレーして欲しい」と参加者らに呼びかけました。このほか、優勝旗・準優勝カップの返還に続き北村会長の始球式で熱戦の火ぶたが切られました。

三日間とも、白熱した試合が展開され、好プレーのたびに拍手が沸き起こりました。28日の閉会式では、木村之彦総務委員長から優勝した(株)朝日工業社大阪支社チームへ優勝旗と表彰状等が授与され、続いて準優勝、第3位、第4位のチームへ表彰状・カップ等の授与が行われました。また、(株)日刊建設通信新聞社関西支社・松浦支社長から優勝・準優勝チームへ盾が贈られました。



北村会長挨拶



北村会長による始球式



木村総務委員長からトロフィーを受ける最優秀選手賞
(株)朝日工業社大阪支社 木原 崇志選手



木村総務委員長からトロフィーを受ける敢闘賞
須賀工業(株)大阪支社 岩井 秀文選手

閉会の辞で木村総務委員長は「お互いの親睦を深める事を目的とし今後も当協会の重要な行事として引き続き開催していきたい」とねぎらいの言葉を述べました。

今大会も、審判及び青年部会の皆様による進行・運営により円滑に進み、無事終了することができました。関係各位に心から感謝申し上げます。



優勝 (株)朝日工業社大阪支社



準優勝 須賀工業(株)大阪支社

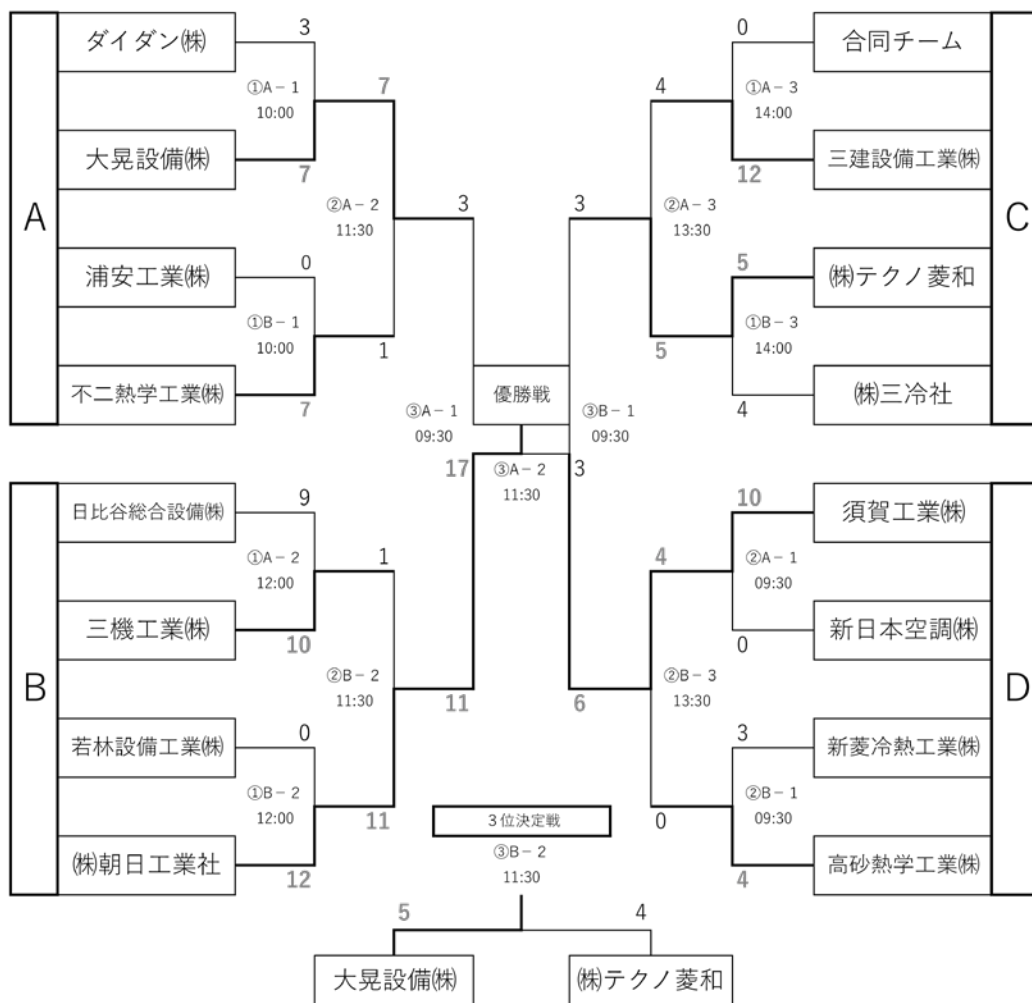


第3位 大晃設備(株)



第4位 (株)テクノ菱和(株)大阪支店

第51回野球大会組合せ表



観戦記 決勝戦

(株)朝日工業社 VS 須賀工業(株)

大成温調(株)大阪支店 藤岡 勝哉

先攻 朝日工業社 VS 後攻 須賀工業

1回表1番打者中丸氏ライト前ヒット、2番打者四ツ永氏3塁打により1点を先制(1-0)4番木原氏センター前ヒットにより、3塁ランナーが進み2点目獲得(2-0)朝日工業社が1回表から2点を獲得。

1回裏須賀工業株式会社は追い上げならず。

(2-0)

2回は両者共無失点の展開。

3回表3回表試合が動きだした。4番打者木原氏2塁打、から順調に点を重ねて3点の追加点となった。(5-0)

3回裏2番打者岡村氏センター前ヒット、3番打者今門氏ライト前ヒット、ランナー1、2塁、4番打者濱中氏三塁ゴロ2アウト、その間ランナー進み2、3塁、5番打者上内氏三振2アウト、6番打者岩井氏三振3アウト

4回は両者共無失点の展開となった。

5回表7番打者橋本氏四球、8番打者桑原氏3塁打により1塁ランナー返り1点、その後も順調に点を重ね3点の追加点となった。(8-0)

5回裏1番打者原田氏が3塁へ、3番打者今門

氏ライト遊、その間タッチアップにより3塁ランナー返り1点獲得、須賀工業の追い上げをはかる。(8-1)

6回表4番打者木原氏からの攻撃で打線が爆発した。一挙に6点の追加点となり。(14-1)

6回裏5番山内のホームランにより、1点追加、須賀工業の反撃はこの回1点となり(14-2)

7回表最終回は5番打者吉田氏の3塁打と順調な始まりを見せた。安打が続きこの回でさらに3点追加となった。(17-2)

7回裏15点差と厳しい展開で迎えた須賀工業最後の攻撃、1点追加するが追い上げすることが出来ず、ゲームセット(17-3)



観戦記 3位決定戦

大晃設備(株) VS (株)テクノ菱和

(株)朝日工業社 水野 裕一

準決勝で惜しくも敗れた大晃設備とテクノ菱和。両チームによる3位入賞を賭けた熱い戦いの幕があがる。

1回表 大晃設備の攻撃。死四球やエラーによる出塁・進塁はあったがテクノ菱和田中投手にノーヒットに抑えられ無得点に終わる。

1回裏 テクノ菱和の攻撃。大晃設備の福井投手の投球にタイミングが合わせられず、三者連続三振。大晃設備に流れが傾く空気となる。

しかし2回表の大晃設備、8番増田選手にヒットが出るも1安打に抑えられると、裏のテクノ菱和、丸山選手尾崎選手の連続安打からエラーも重なり満塁とすると、鎌倉選手の2塁打で2得点。更に押し出し四球で1点を加え、この回一挙3得点を挙げる。

3回表大晃設備。死球とエラーが重なり打者2人で1得点を挙げると、続く佐藤選手のライト前

ヒットでさらに1点をもぎ取り、食らいつく展開へ。

その裏のテクノ菱和の攻撃を3者凡退に抑えると、4回表には水野選手、山下選手の連続ヒット、エラーも起こり1点追加し、同点とした。

勢いに乗った大晃設備だが、その裏テクノ菱和鎌倉選手がセンター前ヒットを放ち、ワイルドピッチで1点を献上。追いかける展開が続く。

5回表 大晃設備攻撃、リードしているテクノ菱和田中投手はヒットを許すも打たせて取るピッチングで無失点。

5回裏 テクノ菱和攻撃、追加点で突き放したところだったが三者凡退となり、

3-4でテクノ菱和がリードする展開で終盤戦を迎える。

迎えた6回大晃設備攻撃、先頭水野選手がライトオーバーの本塁打を放つと福井選手の内野安打などにより、この回一挙2得点とし逆転に成功。

意地を見せたいテクノ菱和であったが、6回、7回を三者凡退で倒れ試合終了となる。

スコア5-4と最後までどちらが勝つかわからない大熱戦となった。

第18回 大空会ゴルフ大会開催

赤松氏が見事優勝

令和6年11月12日（火）に兵庫県宝塚市の宝塚ゴルフ倶楽部で45名が参加して、晴れ渡る秋空の下、第18回大空会ゴルフ大会を開催しました。

競技結果は次のとおりです。

上位入賞者（敬称略）

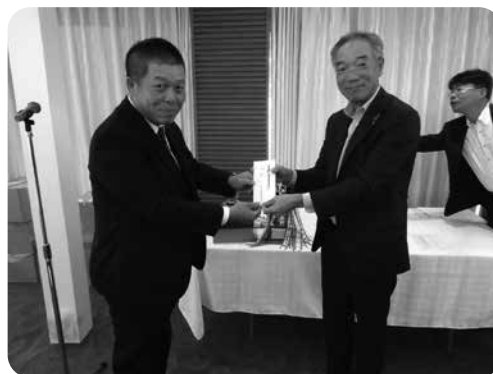
- ◇優勝 赤松 孝宏（高砂熱学工業株式会社関西支店）
- ◇第2位 山田 正人（株式会社千里技研）
- ◇第3位 山野 高晴（川本工業株式会社）



北村会長始球式



北村会長から赤松孝宏様へ優勝カップ



準優勝 山田正人様



第3位 山野高晴様



表彰式を兼ねた食事会

青年部会・なでしこ設備会 活動だより

青年部会・なでしこ設備会合同研修会を開催

当協会青年部会（長元伸吾会長）及びなでしこ設備会（伊藤沙也香会長）は令和6年9月4日午後3時から4時30分まで大阪市西区の建設交流館で研修会を138名が参加して開催しました。

元吉本芸人で漫才経験で得た対人スキルを活かして飛び込み営業の会社にて半年でトップセールスマンへ。その後、独学でファイナンシャルプランナー上級資格のCFPR国際ライセンスを取得され財テクなどの「お金」に関する講義にも「笑い」を取り入れ幅広く講演を行われている篠原充彦様を講師に招いての講演会となりました。

篠原様は「元お笑い芸人FPが伝える！本気のライフプランセミナー」をテーマに講演されました。



研修会風景

また研修会を終えたあとと会員及び賛助会員と懇親交流会を催し、活発に情報交換をしました。



青年部会 佐野委員長 開会挨拶



【講師】篠原 充彦 様



懇親会風景



なでしこ設備会 伊藤会長 閉会挨拶

なでしこ設備会 施設見学会

大阪市立阿倍野防災センター「あべのタスカル」

令和6年10月4日（金）になでしこ設備会恒例の見学会を実施しました。今年度は例年と趣向を少し変え、大阪市阿倍野区にある阿倍野防災センター「あべのタスカル」にて、初期消火実践が学べる体験ツアーに参加しました。

こちらの施設は今後発生が予想される南海・東南海地震や南海トラフ巨大地震などの大災害に備えるため、自分の住む地域の特性に応じた災害危険を認識することで、自分に必要な知識や技術を選択し、体験を通じて学ぶことができる体験型防災学習施設です。災害の際の行動の仕方、応急処置や救出の仕方などを実際に体験しながら学べるので、防災の知識をしっかりと身につけることができます。

参加した初期消火実践Fコースでは、火災発生時に自宅等で気を付けるべきことや煙を吸わないような避難の方法を学び、屋内消火栓による初期消火訓練も行いました。開閉バルブの操作、ポンプの起動確認、ホースの取り扱いなど順を追って教わりながら、本番さながらの訓練を行うことができました。特に1号消火栓に関しては2人1組となり、準備確認の掛け声などを行いましたが、バルブの開閉に時間がかかることや、ホースを伸ばすのに時間がかかるということ、また水圧のかかるホースを支えながら放水することが女性の場合にはどれだけ大変かということ、身をもって感じることができました。コースの最後には震度7の直下型地震を体験し、手すりを持っていても、自分の体を保持することが難しいということを体



験し、数十年以内に来ると予想される地震に備えることができました。

今後もこのような機会を通じて、会員同士の親睦を深めながら、空調衛生設備業に関わる者として、防災・減災の意識を持つことで、自らの業務を顧みる機会を持ちたいと思います。



告知板

○賛助会員募集のご案内

地球温暖化対策が求められる中、空調衛生設備へのニーズは、変化・拡大しております。特に、「脱炭素社会」、「カーボンニュートラル (CN)」への取り組みは、当協会と各メーカー、代理店の皆様と連携した研究開発が重要となってまいります。

このような状況を踏まえ、当協会では賛助会員の募集を行っております。

賛助会員として入会されますと、当協会において新技術、新商品の発表の場が持てるとともに、新年交礼会や総会後の懇親会などの交流の場にご参加いただけます。

多くのメーカー、代理店各位のご入会をお待ちしております。

賛助会費 1社月額4,000円

会費納入 入会年度の会費は入会月から翌年3月末までの期間分を入会時に納入
(4,000円×3月までの月数)
以後は年額(48,000円)を下記半期と下半期に分け、上半期は6月末
下半期は12月末に納入

入会手続 協会事務局までご連絡下さい。入会申込書を送付します。

○今後の主な行事予定

開催日	行 事	場 所
4月3日(木) 4日(金)	新入社員研修会	エル・おおさか南館 5階南ホール
5月13日(火)	当協会第52回定時総会	リーガロイヤルホテル
9月27日(土) (予定)	第15回配管技能コンテスト	大阪府立東大阪高等職業技術専門校

●●●●●●●● 機関誌「大空衛」の表紙写真の募集 ●●●●●●●●

広報委員会では、年2回発行の機関誌「大空衛」の表紙写真につきましては、建築物を中心としたまちなみ等をモチーフとした写真を、会員及び賛助会員の皆様から募集したいと存じます。

つきましては、応募をお考えの方は、事務局(06-6271-0175)までご連絡して下さい。

なお、採用された方には、僅かですが、掲載料をお渡しします。

広報委員会

2025年

迎

春



一般社団法人 大阪空気調和衛生工業協会会員(78社)

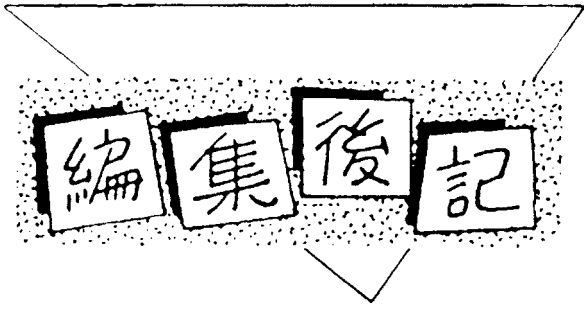
会 社 名	代表者氏名	会 社 名	代表者氏名
赤井設備工業(株)	上田 訓司	敷島煖房工業(株)	土橋 誠二
(株)朝日工業社大阪支社	西岡 毅	四國機械設備(株)	曾我 幸二
(株)上杉工業	上杉 嘉邦	島設備工業(株)	井上 暎夫
浦安工業(株)大阪支店	水野 博史	主計管工(株)	中井 主蔵
(株)江坂設備工業	中村 昭一	城陽ダイキン空調(株)	門脇 年治
エルゴテック(株)西日本支店	高木 登	(株)城口研究所関西支店	小山 正晃
オーディーエー(株)	織田 幸子	新日本空調(株)大阪支店	上杉 晴一
(株)大阪城口研究所	城口 俊雄	新菱冷熱工業(株)西日本事業部	山口 武男
鳳工業(株)	齊藤 伸一	須賀工業(株)大阪支社	中川 修
奥田商工(株)	奥田 康雅	(株)精研	辻 武寿
影近設備工業(株)大阪支店	東野 大輔	(株)千里技研	山田 正人
川崎設備工業(株)西部支社	国枝 実成	第一工業(株)大阪支店	坂下 隆
川惣電機工業(株)	昆沙賀正道	第一設備工業(株)大阪支店	中村 秀樹
川本工業(株)大阪支店	菅野 公隆	大貴設備(株)	田窪大五郎
木村工業(株)	木村 之彦	ダイクウ(株)	橋本 輝
協伸工業(株)	森岡 由智	大晃設備(株)	高橋 孝治
(株)共進社工業所	山内 順二	大成温調(株)大阪支店	柴垣 哲
享和設備(株)	竹本 和正	ダイダン(株)大阪本社	北村広外志
クウケン(株)	杉本 知紀	大熱工業(株)	藪本 繁明
九櫻設備工業(株)	高安 秀幸	高砂熱学工業(株)関西支店	赤松 孝宏
(株)クドウエンジニアリング	磯崎 博	(株)タカネツ	高木 優
(株)ケンシヨウ	熱田 敏広	(株)竹本設備	竹本 太郎
五建工業(株)大阪支店	安田 実	田丸産業(株)	堀田 高志
サノヤス・エンテック(株)	浅尾 洋光	(株)テクノ菱和大阪支店	武田 和夫
三機工業(株)関西支社	勝野 耕治	東洋工業(株)	谷本賢太郎
三建設備工業(株)大阪支店	永田 博巳	東洋熱工業(株)大阪支店	藤原 和明
(株)三晃空調大阪本店	堀内 昭律	(株)T R U S T	桑原 貴志
三神工業(株)大阪支店	高谷 俊則	(株)錦	廣田 典子
三宝電機(株)	井上 清人	(株)西原衛生工業所大阪本店	植田 順一
(株)三冷社西日本支社	大田 勝己	(株)日設関西支店	長尾 正
(株)JR西日本テクシアMC事業所	松尾 忠海	日本管工業(株)大阪営業所	小野 直人

会 社 名	代表者氏名	会 社 名	代表者氏名
日本ファッション(株)大阪本店	植谷 信之	(株)北 祥	澤村 幸雄
日本メックス(株)関西支店	立川 雅司	(株)前田商 会	前田 裕子
(有)原 設 備	原 良一	(株)マサキ 設 備	正木 規善
日比谷総合設備(株)関西支店	金子 昌史	丸 住 (株)	吉田 博子
(株)一二三工業所	一二 健夫	(株)マルフォー ス	田代 一臣
(株)不二設備工業所	水田 幸宏	美和設備工業(株)	栢瀬 秀樹
不二熱学工業(株)	近藤 康之	柳 生 設 備 (株)	福地 文雄
富士古河E&C(株)西日本支社	辻 郁次	若 林 設 備 工 業 (株)	若林 豊

賛 助 会 員

(62社)

会 社 名	代表者氏名	会 社 名	代表者氏名
朝日機器(株)大阪支店	佐竹 輝久	高 井 水 栓 (株)	高井 徹
アズビル(株)ビルシステムカンパニー関西支社	石坂 芳人	タカラ通商(株)	渡辺 晃
アルファ・ラバル(株)大阪支社	竹次 裕佑	(株)多久製作所建築・設備営業本部関西グループ	吉田 智也
安 藤 (株)	安藤 晴重	(株)タブチ大阪特販部	下玉利 誠
イシグロ(株)西日本営業本部	松倉 義人	テラル(株)関西支店	若林 聡
因幡電機産業(株)	山田 剛志	東西化学産業(株)本社	河野 祐一
井下機器(株)	井下 光泰	東テク(株)大阪支店	糸満 睦夫
荏原実業(株)関西営業所	綿谷 龍一	T O T O (株)特販本部	土井 賢治
(株)荏原製作所西大阪支店	柳田 弘一	T O T O 関西販売(株)	前田 信
(株)オーケーエム大阪支店	野曾原康夫	(株)ニシテック関西支社	藪川 洋一
オーケー器材(株)	山田 進一	ニッケイ(株)大阪営業所	清水 栄蔵
(株)オンダ製作所西日本支店	稲村 佳和	日製電機(株)大阪空調営業所	小野由記夫
川重冷熱工業(株)西日本支社	高畑 輝彦	ニ ッ タ (株)	鈴木 弘樹
(株)川本製作所大阪支店	山下 哲彦	日本電技(株)大阪支店	八木 浩一
キタックスエンジニアリング(株)大阪本社	西本 智彦	日本水処理工業(株)	川西 昌史
(株)キ ッ ツ	大屋一比古	(株)日阪製作所	大森 輝博
木村工機(株)大阪営業本部	登尾 公彦	日比谷通商(株)関西支店	芝口 薫
協立エアテック(株)大阪支店	津田 勇	(株)扶 洋	横田 好明
空研工業(株)大阪支店	秦 利治	(株)ベルテクノ大阪支店	和田 修治
(株)古島大阪支店	宮城 弘幸	北 勢 工 業 (株)	北山 秀晴
(株)コスタコーポレーション	白井 敏弘	三菱電機冷熱機器販売(株)西日本支社	福岡 敬史
三和鋼管(株)大阪営業所	岸野 真治	森松工業(株)大阪支店	山本 直樹
ジョンソンコントロールズ(株)大阪支店	小柳 吉正	(株)大和バルブ西日本統括支店	小池 弘明
新晃工業(株)大阪支社	加藤 勉	ヤマトヨ産業(株)本社	大野 賢二
(株)振興社設営	楠 幸隆	ヤンマーエネルギーシステム(株)大阪支社	徳島 久泰
新日本美風(株)	荒牧 太郎	ユアサ商事(株)関西支社	小西 達朗
シンテック(株)大阪営業所	田村 周治	(株)ユニックス大阪営業所	内田 徹
住友商事マシネックス(株)大阪オフィス	才本 幸治	(株)ヨシタケ大阪営業所	古澤 嘉啓
タイョージョイント(株)大阪営業所	後藤亮太郎	(株)LIXIL LWTJ関西設備プロジェクト支店	服部 洋典
(株)ダイキアクシス大阪支店	横尾 純也	(株)RYODEN西日本支社	作田 匡志
(株)大 和	和田 浩一	リ ン ナ イ (株)	岡野 哲明



去年は、元日より、能登半島地震に見舞われ、被災者が前を向き始めた9月21日に能登豪雨により再度被災されました。心が折れそうな状況となり何とも言えない年となりました。被災されたすべての方にお悔やみを申し上げます。

本年は、4月13日より184日間に渡って、夢洲で待ちに待った関西万博が開催されます。万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。子供のころにテレビで見た「ドラえもん」で携帯電話や翻訳機など今では当たり前のモノが放送されておりました。万博の展示物が、未来に当たり前のモノになるどんな種が展示されているか楽しみです。

会員の皆様におきましては、変化の多い環境下において柔軟に発展していく年となるよう祈念いたします。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

(Y. K)

新年が近付くと、とかく干支の話になりますよね。そこで、干支のことを調べてみました。

干支は本来「十干十二支(じっかんじゅうにし)」のことで、十二支と十干(じっかん)と呼ばれるものを組み合わせた数え方だそうです。

「十干」は、十二支と同様に古代中国の思想で、「甲(きのえ)、乙(きのと)、丙(ひのえ)、丁(ひのと)、戊(つちのえ)、己(つちのと)、庚(かのえ)、辛(かのと)、壬(みずのえ)、癸(みずのと)」の10種類から成り立ち、十二支と十干の組み合わせは60種類あり、干支が一回りすることを還暦というそうです。

さて、2025年は乙巳(きのと・み)。「努力を重ね、物事を安定させていく」といった縁起のよさを表している年といえそうです。

今までに積み重ねた努力を大きく飛躍させる年にしたいですね！

(A. H.)

当協会は、昨年2月に社団法人として認可されてより、満50周年の佳節を迎えました。これを記念して、5月に記念式典、記念祝賀会を、官公庁等の来賓を迎え盛大に開催するとともに、7月末には当協会の50年の歩みや空調衛生工事業界で活躍する女性や技術者による座談会等を収めた記念誌を発刊し、会員・賛助会員をはじめ関係各位に配布しました。

そのような慌ただしい昨年でしたが、機関誌大空衛も94号(新春号)及び95号(夏季号)を何とか予定通り発行することができました。これもひとえに、広報委員、広報専門委員等の関係者のご尽力によるものと深く感謝する次第です。

機関誌としては、第1号を昭和50年(1975年)に創刊、その後毎年発行し今日に至っております。

今回の記念誌の発刊にあたっては、これまでの機関誌が大いに役立ったことは言うまでもありません。

今後も、当協会の活動や歩みを機関誌にしっかりと留めてまいりたいと思います。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

(S. H)

大空衛 第96号

令和7年1月31日発行

編集人 広報委員会

発行人 一般社団法人大阪空調和衛生工業協会
〒541-0052

大阪市中央区安土町1丁目7番20号

新トヤマビル3階

Tel 06 (6271) 0175

Fax 06 (6271) 0177

E-mail: osakakueikyo@tenor.ocn.ne.jp

URL <http://daikuei.com>

印刷 株式会社西川印刷所

